

おく太平記夷賊退治の条下にお件より引
傳る。朝廷大に事難ありといふ文の續に
云先年保則は東山及の安符を賜り是
を移めよとして下さり。次は山形春風を以
て陸奥府將軍に付せしめ東海及の云を傳へ
保則を助けしとして友人五月と六月とに都
を立て下りし。保則はけりしは目よりんと
あり。機あり。是は羽良（夷下羽良の禁は
人殺を化しそむ）は中を順見し。東山及
の惣軍勢二万餘人を以てよふ。是は我

為兼。軍勢を以て智を合ふ。子余人。是は東の境
なく。及よ止む。是よりく。と玉中を限り
なく。通りて。山林幽谷。海軍。離隔。と。凶賊の
餘勢を授け。遍く。所り。居る。もの。あり。時ハ
昂。時ハ。謙。と。云く。又曰。一。年ハ。仙。及。は。一。年ハ。
是。沃。口。名。二。子。を。以。る。宛。の。軍。旅。を。傳。て。上。力
。奥。州。の。無。禮。を。授。け。歟。ハ。笑。ふ。所。方。ハ。性。良。
。を。使。さ。二。年ハ。秋。田。の。追。手。搦。手。ハ。各。大。將。を
。是。向。て。是。東。二。十。日。を。限。と。一。万。人。を。以。て
。よ。一。て。二。子。人。宛。息。を。續。と。さ。夷。を。り。れ。む。